

景気見通し調査(平成26年9月期)

調査結果

福井商工会議所
中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所の短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期 平成26年9月4日(木)～9日(火)

調査方法 F A Xによる送付、回収

調査対象 福井商工会議所 会員小規模事業所より 350件を抽出

(製造業・建設業・・・従業員20人以下の事業所

卸・小売業、商業・サービス・その他・・・従業員5人以下の事業所)

回答数 187件 (回収率53.4%)

	製造	建設	卸・小売業	サービス・その他	合計
5人以内	11	15	27	13	66(35.3)
6～10人	14	13	10	9	46(24.6)
11人以上	20	19	19	17	75(40.1)
合計	45(24.1)	47(25.1)	56(29.9)	39(20.9)	187

文中にでてくる「DI値」とは

ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇」したとする企業割合から、「悪い」「下落」したとする企業割合を差し引いた値。

【調査結果の概要】

消費増税後の大幅悪化から緩やかな持ち直しも 先行きは慎重

- 1) **業界の景況**は、現在 DI 値が▲38.1 と前回調査から 8.6 ポイントの改善。前回調査の先行 DI 値を若干上回る改善となった。業種別に見ると、「製造業」のみわずかに悪化が見られた。「今後(3ヶ月後)」の先行 DI 値は▲37.6 と、現在と比べ 0.5 ポイントとわずかに改善を予想。業種別に見ると「サービス・その他」のみ現在より悪化の見込みとなった。
- 2) **自社の景況**も業界 DI 値同様、現在 DI 値は▲30.4 と前回調査と比べて 5.7 ポイントの改善。業種別に見ると「製造業」、「建設業」では悪化したが、「卸・小売業」、特に「サービス・その他」で大幅な改善が見られ全体を押し上げた。「今後(3ヶ月後)」の先行 DI 値は▲28.6 と、現在と比べ 1.8 ポイントとわずかに改善を予想。業種別に見ると、「製造業」において特に改善を見込む結果となった。
- 3) **売上(受注高)**について、「現在」の DI 値は▲28.5 と前回調査に比べ 7.6 ポイントの改善。横ばいだった「建設業」以外の業種で改善が見られたが、前回調査の先行 DI 値(▲24.2)と比べると改善の動きは想定よりも鈍い。「今後(3ヶ月後)」の先行 DI 値は▲28.9 と、現在と比べるとわずかではあるが 0.4 ポイント悪化を予想しており、先行きは慎重な見通しとなった。
- 4) **仕入価格**について「現在」DI 値は▲36.5 と前回調査に比べ、20.5 ポイントと大幅に改善し、上昇傾向が大幅に弱まった。業種別に見ても、全ての業種において 10 ポイント以上の改善が見られる結果となった。「今後(3ヶ月後)」の先行 DI 値は▲43.8 と、現在 DI よりも上昇傾向が見られ、全業種で悪化の見込みとなった。
- 5) **販売価格**は、現在 DI 値 0.6 と前回調査に比べ 4.4 ポイント悪化しているものの、DI 値はプラス圏を維持する結果となった。業種別に見ると、「製造業」のみ▲8.9 と下落超過となっている。「今後(3ヶ月後)」の先行 DI 値は 0.6 と、現在と横ばいを見込んでいる。業種別に見ると、現在 DI 値同様、「製造業」のみ下落超過となった。
- 6) **採算(収支)状況**について、現在の DI 値は▲31.3 と前回調査と比べて 12.3 ポイントと大幅に改善した。業種別に見ても、全ての業種で改善が見られた。高水準ながらも仕入価格の上昇傾向が弱まったことから、採算状況が改善した。「今後(3ヶ月後)」の先行 DI 値は▲34.1 と現在と比べて 2.8 ポイント悪化となり、仕入価格の上昇見通しを反映した結果となった。

DI 値前回調査との比較

※－(マイナス)は悪化、＋(プラス)は改善

	業界 DI		自社 DI		売上 DI		仕入 DI		販売 DI		採算 DI	
	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行
全業種	8.6	1.3	5.7	5.1	7.6	-4.7	20.5	8.7	4.4	-3.2	12.3	10.3
製造業	-2.2	-6.6	-12.7	4.7	5.6	-6.9	20.4	2.6	-11.2	2.3	1.3	9.5
建設業	4.3	0.3	-2.4	2.0	0.0	-16.5	29.5	22.3	6.7	2.1	11.3	3.6
卸・小売業	9.2	8.7	11.5	1.0	19.9	-0.1	21.1	10.2	5.3	-14.2	19.2	11.4
サービス・その他	22.1	0.4	29.9	15.5	1.2	4.7	10.1	-0.9	-7.7	-0.3	16.8	15.9

【業界別動向】

業種		キーワード		業界 (現在)	自社 (現在)	売上動向 (現在)
製造	+	・夏期需要の増加(食品)	前回 H26.6			
	—	・増税前駆け込みの反動減(機械) ・受注単価の下落(その他)	今回 H26.9			
建設	+	・受注好調	前回 H26.6			
	—	・4月以降の受注減少 ・価格競争激化	今回 H26.9			
卸・小売	+	・単品商品の売上好調(小売)	前回 H26.6			
	—	・売上減少と取引先廃業(卸・小売)	今回 H26.9			
サービス・その他	+	・夏期は団体、家族客が増加するため(サービス)	前回 H26.6			
	—	・取引先のコスト削減(サービス)	今回 H26.9			

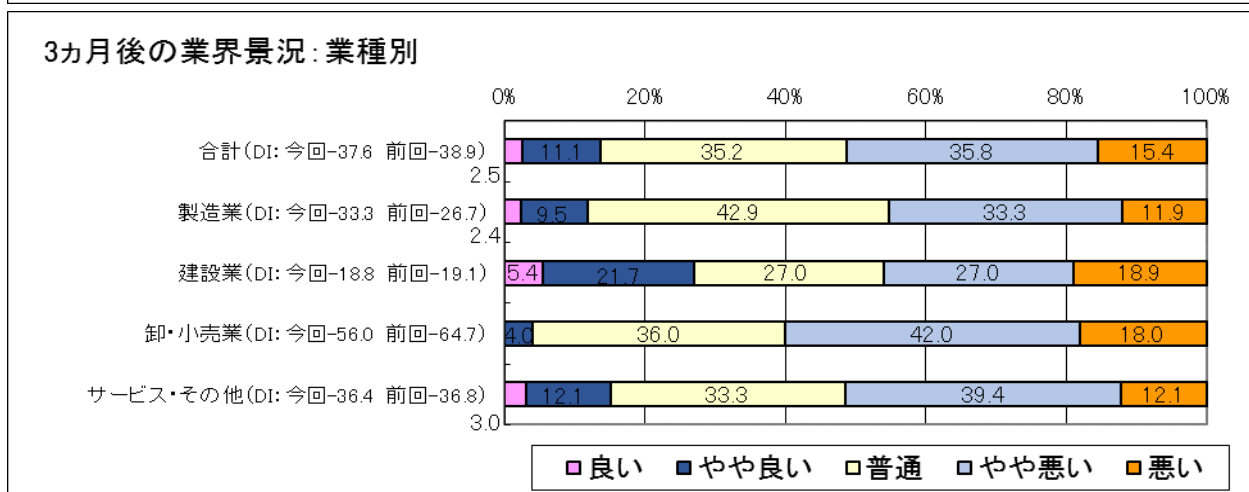
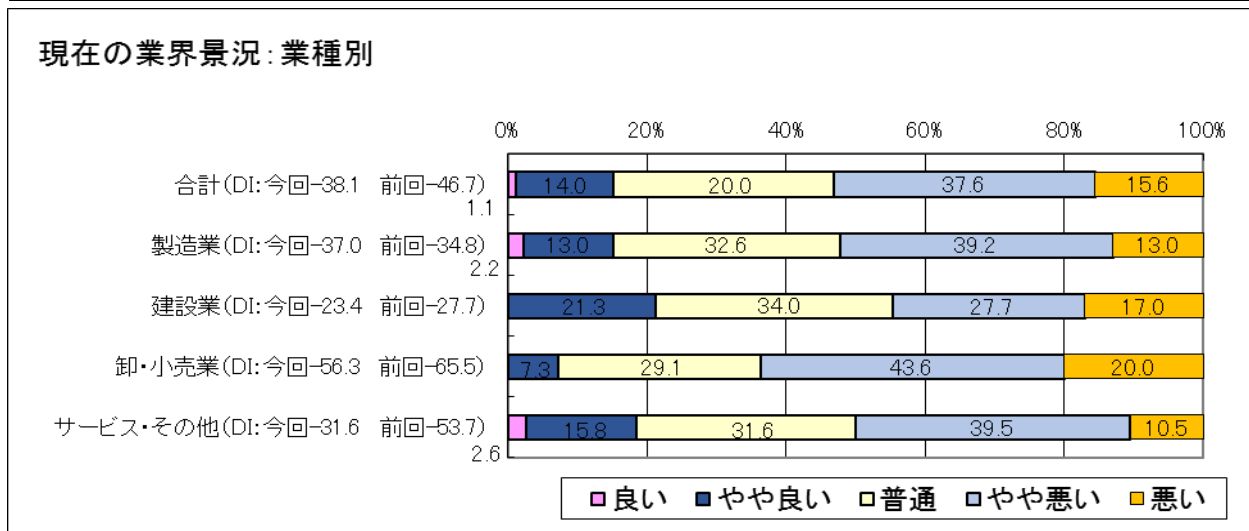
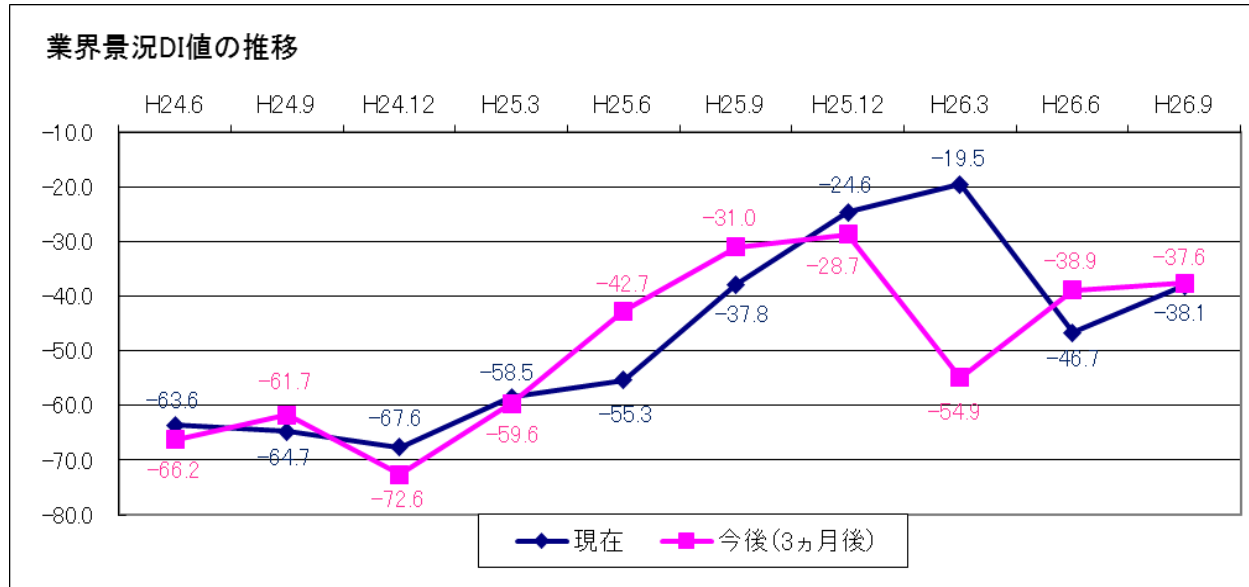
DI値	天気	DI値	天気	DI値	天気
20.1 以上		5.0~▲5.0		▲20.1~▲40.0	
5.1~20.0		▲5.1~▲20.0		▲40.1 以下	

【業界の景況】

消費税増税後の大幅な悪化から緩やかな持ち直し

業界の景況は、現在 DI 値が▲38.1 と前回調査 (H26 年 6 月) から 8.6 ポイントの改善。前回調査の先行 DI 値 (▲38.9) を若干上回る改善となった。業種別に見ると、「製造業」のみわずかに悪化が見られ、消費税増税前の駆け込み需要の反動減が遅れて現れているとの声も聞かれた。

「今後 (3 ヶ月後)」の先行 DI 値は▲37.6 と、現在と比べ 0.5 ポイントとわずかに改善を予想。業種別に見ると「サービス・その他」のみ現在より悪化の見込みとなった。

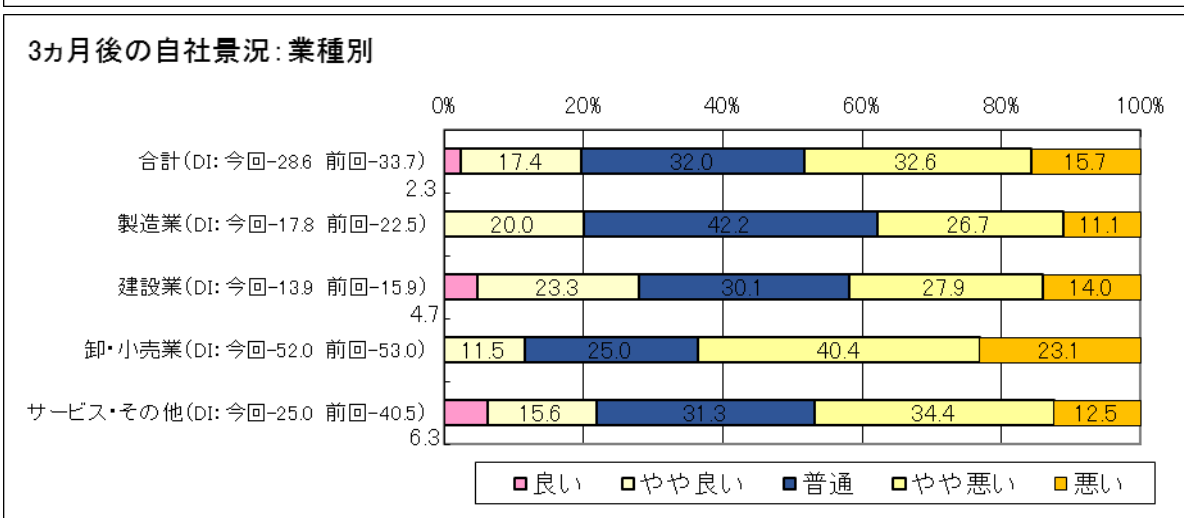
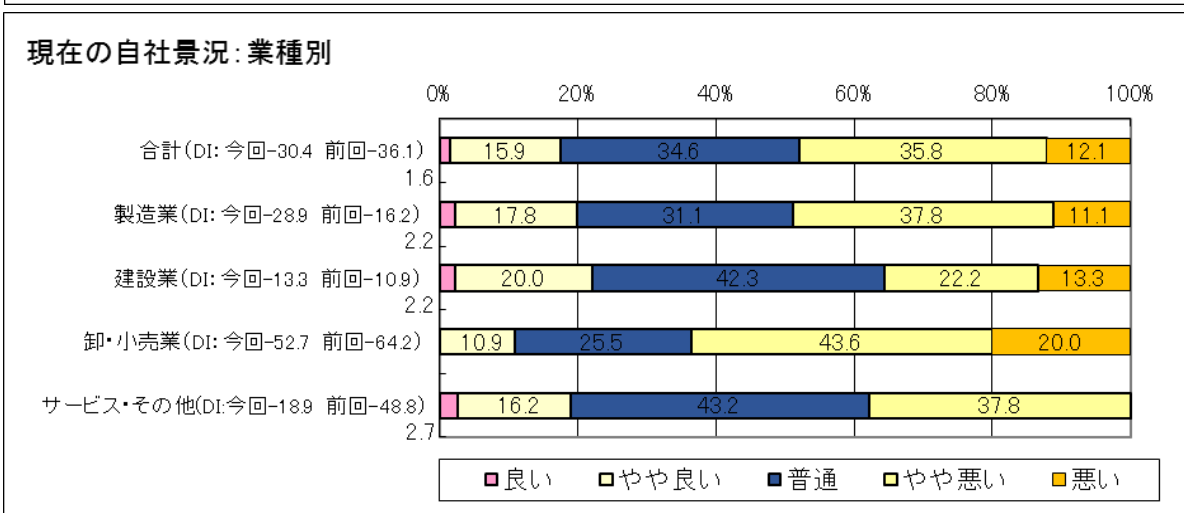
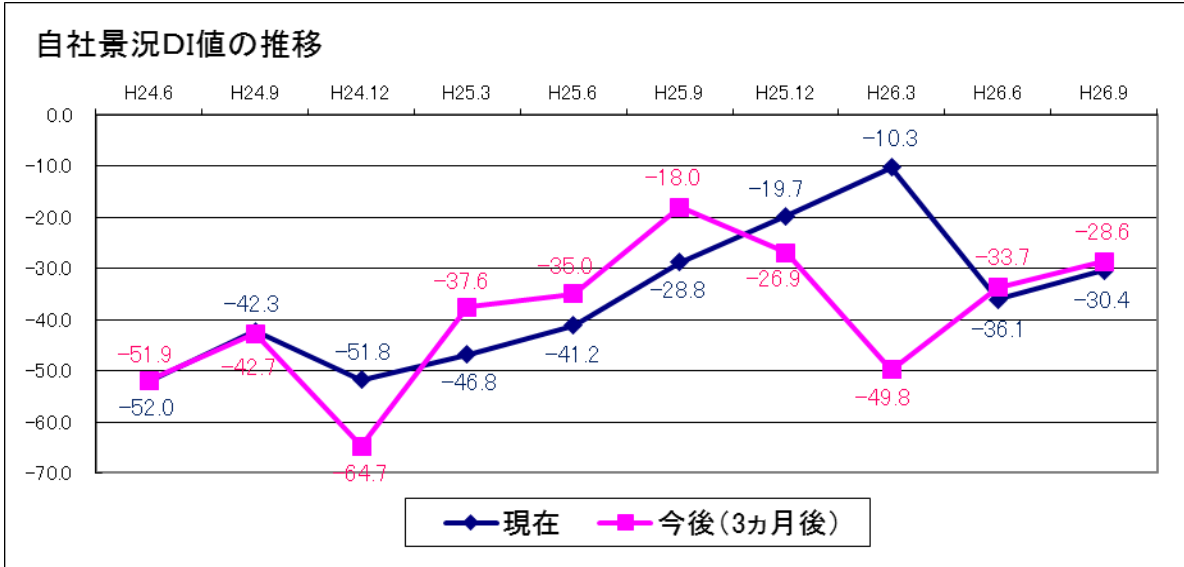


【自社の景況】

増税の反動減から緩やかに持ち直し 先行きも改善傾向続く

自社の景況も業界 DI 値同様、現在 DI 値は▲30.4 と前回調査と比べて 5.7 ポイントの改善。業種別に見ると「製造業」、「建設業」では悪化したが、「卸・小売業」、特に「サービス・その他」で大幅な改善が見られ全体を押し上げた。

「今後(3ヶ月後)」の先行 DI 値は▲28.6 と、現在と比べ 1.8 ポイントとわずかに改善を予想。業種別に見ると、「製造業」において特に改善を見込む結果となった。

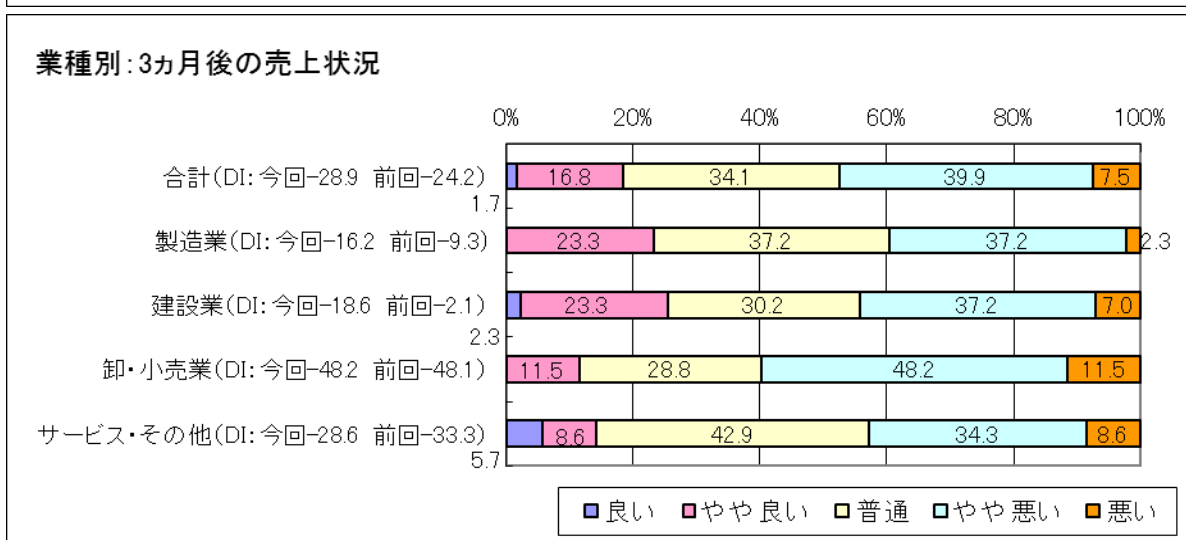
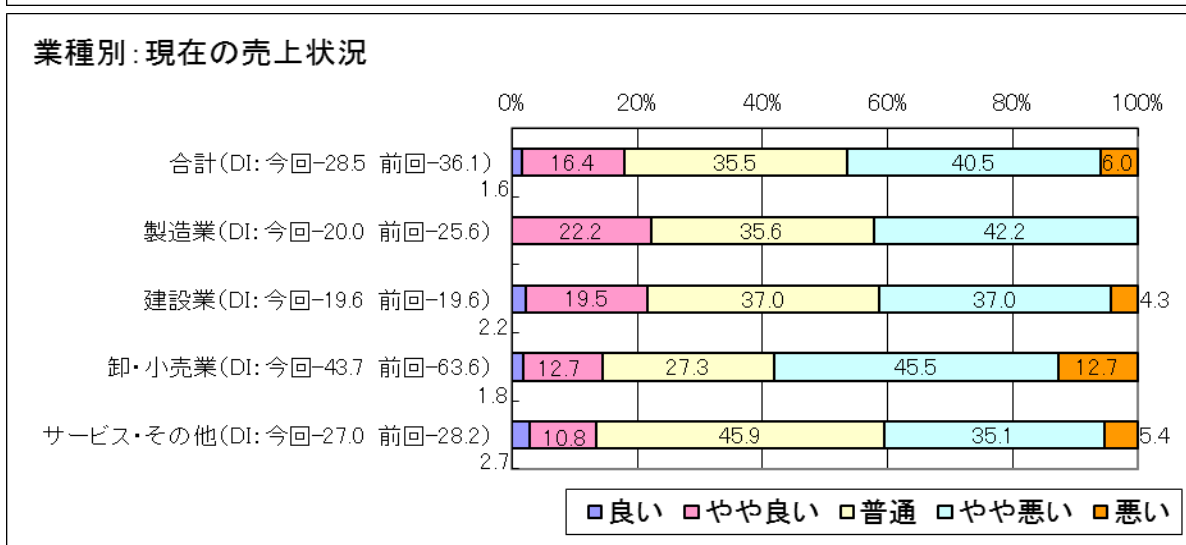
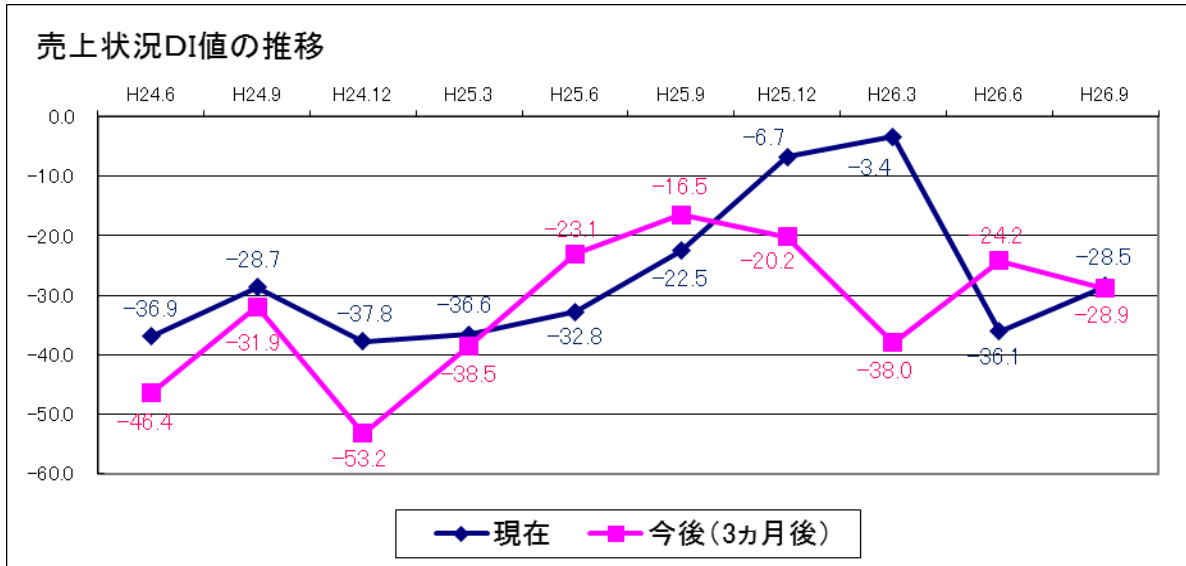


【売上(受注高)】

増税の冷え込みから改善するも 想定より鈍い動き

売上(受注高)について、「現在」のDI値は▲28.5と前回調査に比べ7.6ポイントの改善。横ばいだった「建設業」以外の業種で改善が見られたが、前回調査の先行DI値(▲24.2)と比べると改善の動きは想定よりも鈍い。

「今後(3ヶ月後)」の先行DI値は▲28.9と、現在と比べるとわずかではあるが0.4ポイント悪化を予想しており、先行きは慎重な見通しとなった。

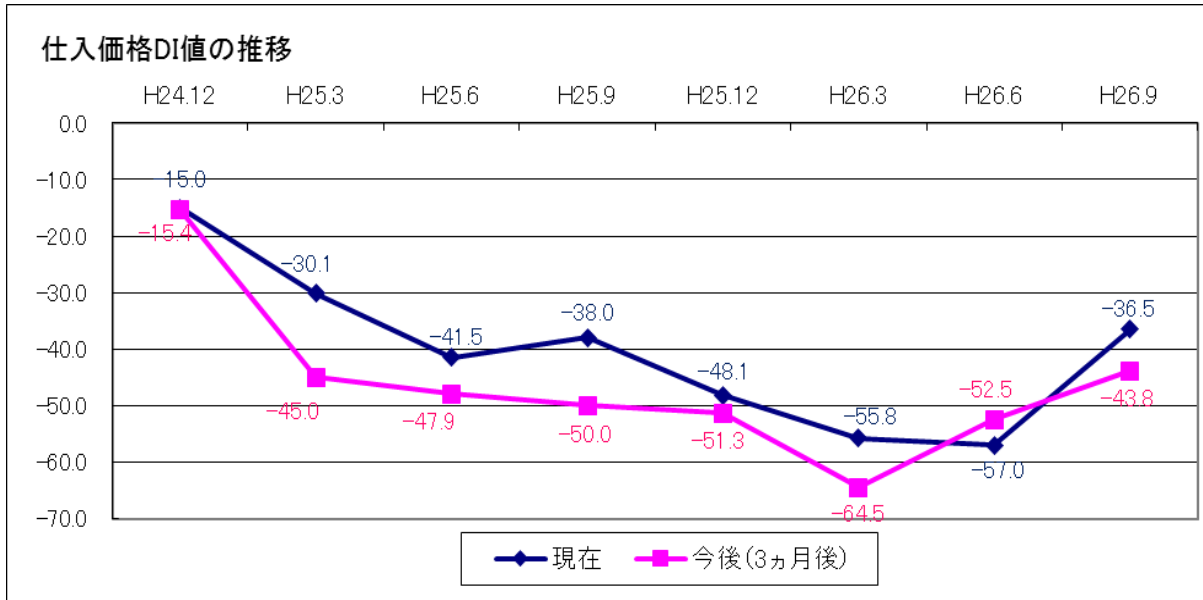


【仕入価格】

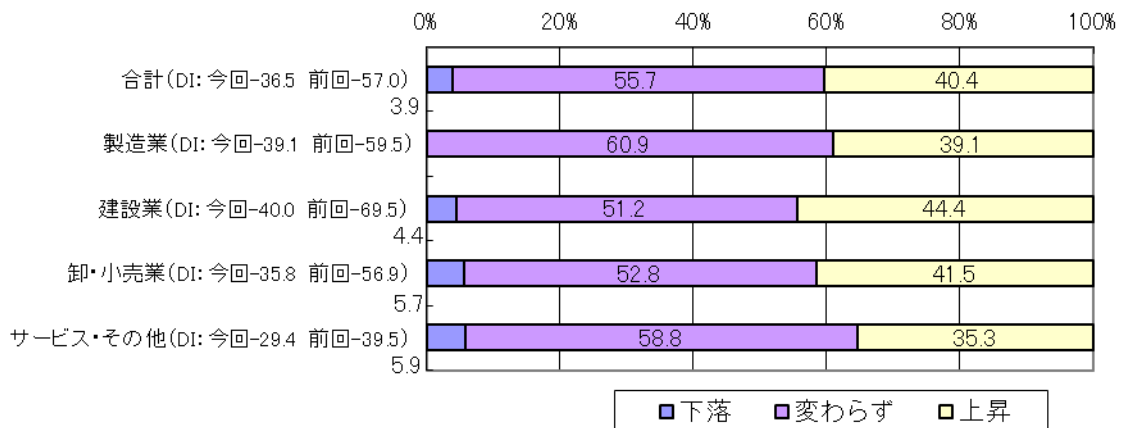
上昇傾向が大幅に弱まるが 先行きは予断を許さない状況

仕入価格について「現在」DI値は▲36.5と前回調査に比べ、20.5ポイントと大幅に改善し、上昇傾向が大幅に弱まり、H25.9期以来の改善となった。業種別に見ても、全ての業種において10ポイント以上の改善が見られる結果となった。

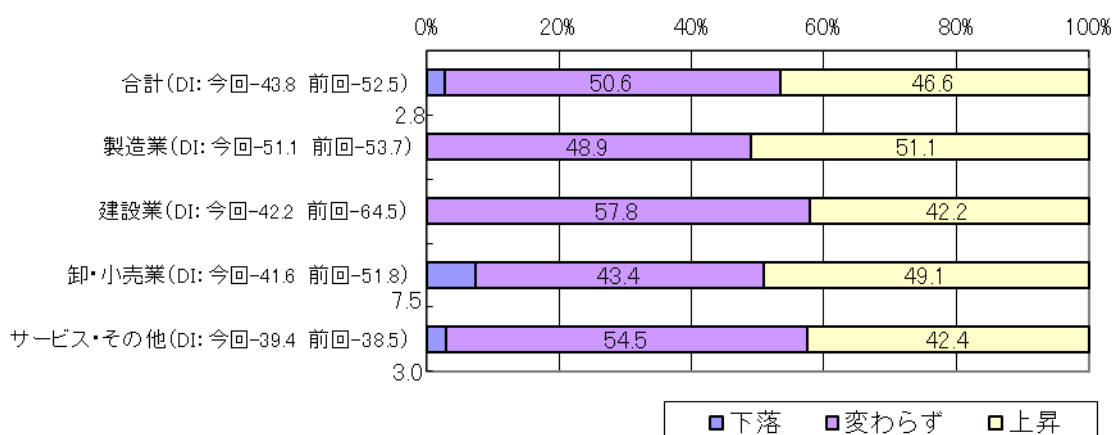
「今後(3ヶ月後)」の先行DI値は▲43.8と、現在DIよりも上昇傾向が見られ、全業種で悪化の見込みとなった。



業種別：現在の仕入価格の状況



業種別：3ヵ月後の仕入状況

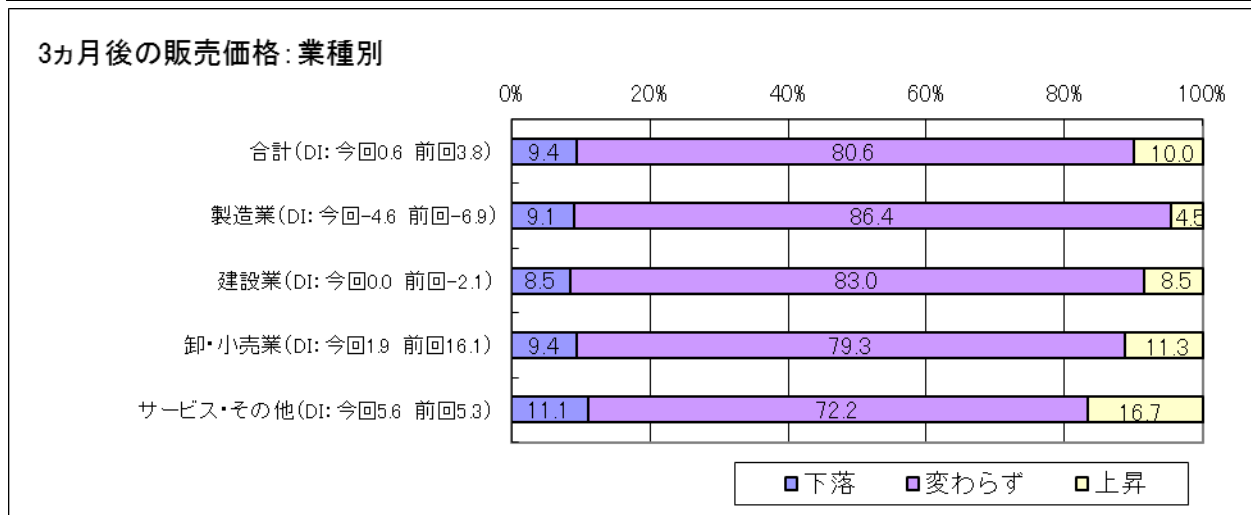
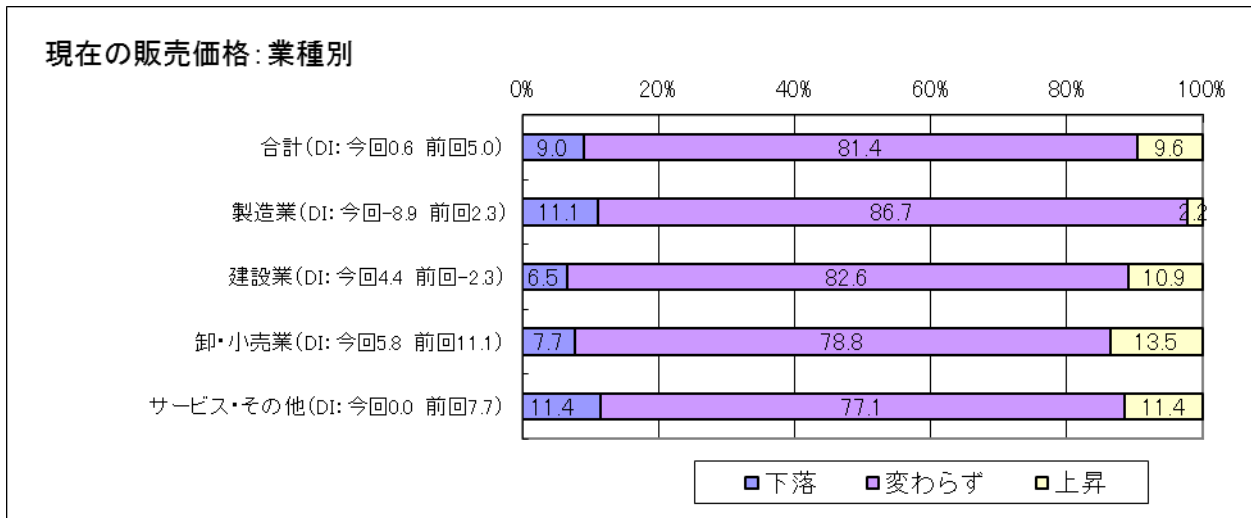
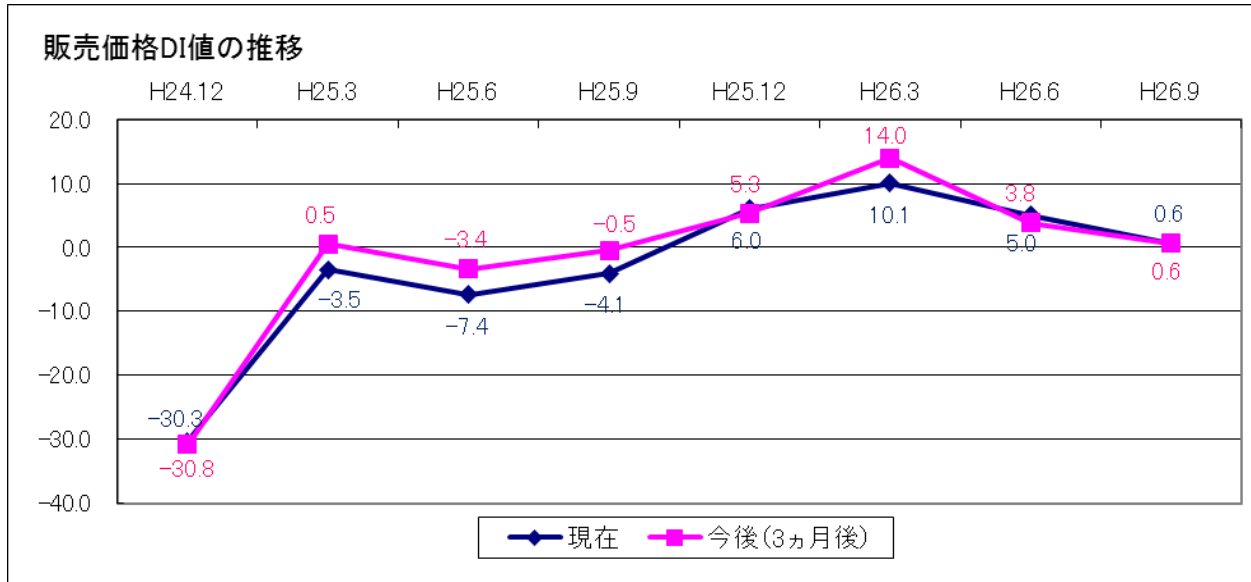


【販売価格(単価)】

下落傾向ながらもプラス圏を維持

販売価格は、現在 DI 値 0.6 と前回調査に比べ 4.4 ポイント悪化しているものの、DI 値はプラス圏を維持する結果となった。業種別に見ると、「製造業」のみ▲8.9 と下落超過となっている。

「今後(3ヶ月後)」の先行 DI 値は 0.6 と、現在と横ばいを見込んでいる。業種別に見ると、現在 DI 値同様、「製造業」のみ下落超過であり、3ヶ月後も同様の動きとなった。

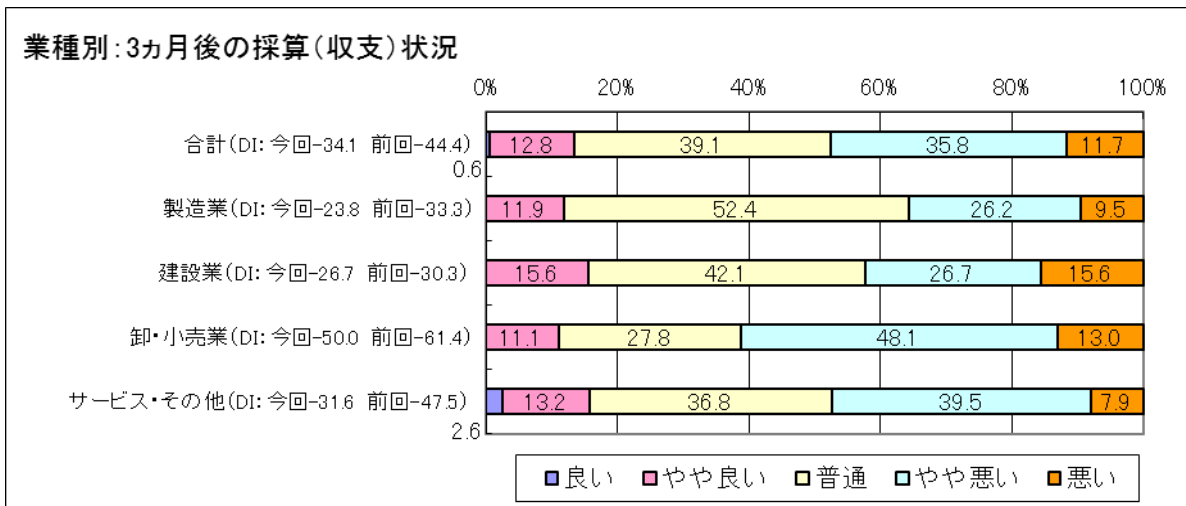
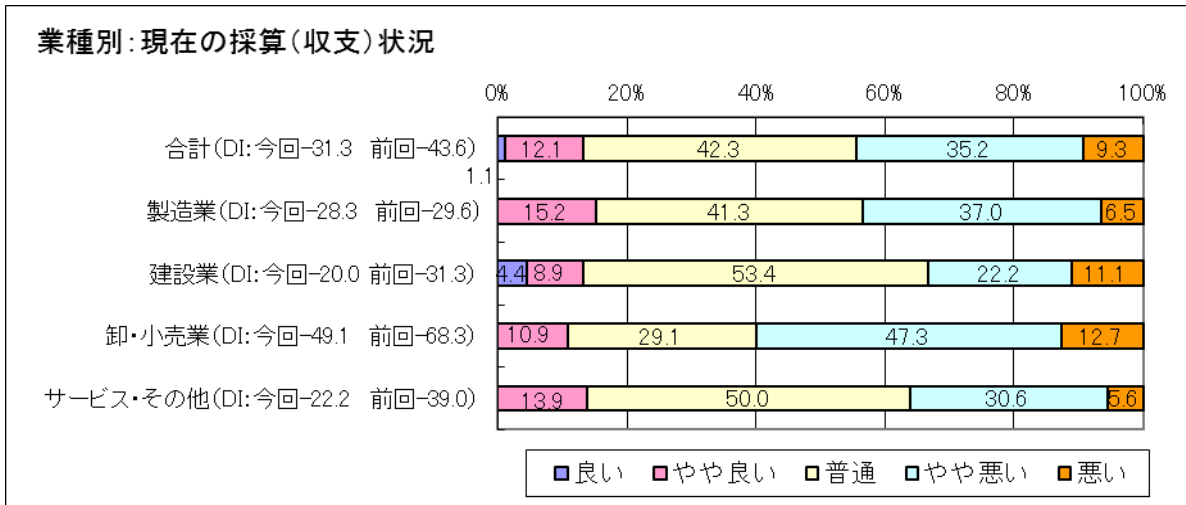
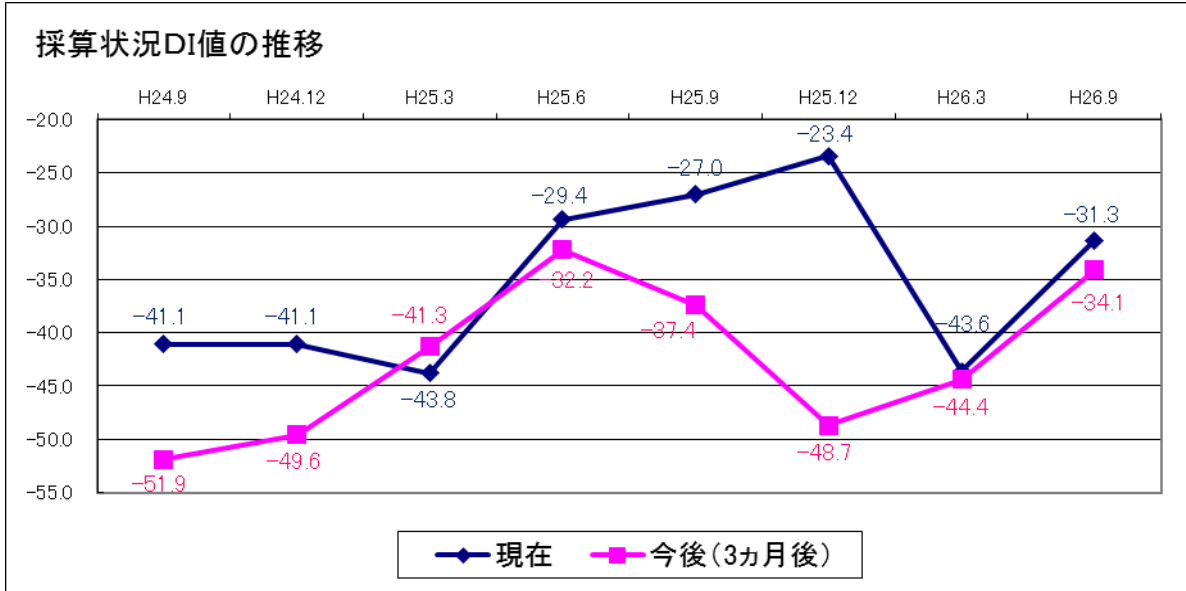


【採算(収支)状況】

仕入価格上昇が弱まり採算性も大幅な改善

採算(収支)状況について、現在のDI値は▲31.3と前回調査と比べて12.3ポイントと大幅に改善した。業種別に見ても、全ての業種で改善が見られた。高水準ながらも仕入価格の上昇傾向が弱まったことから、採算状況が改善した。

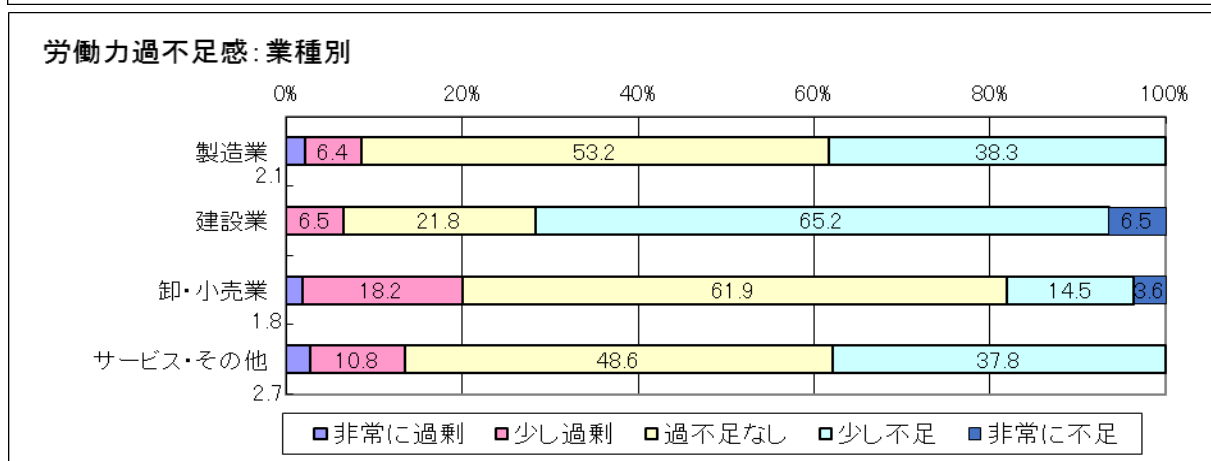
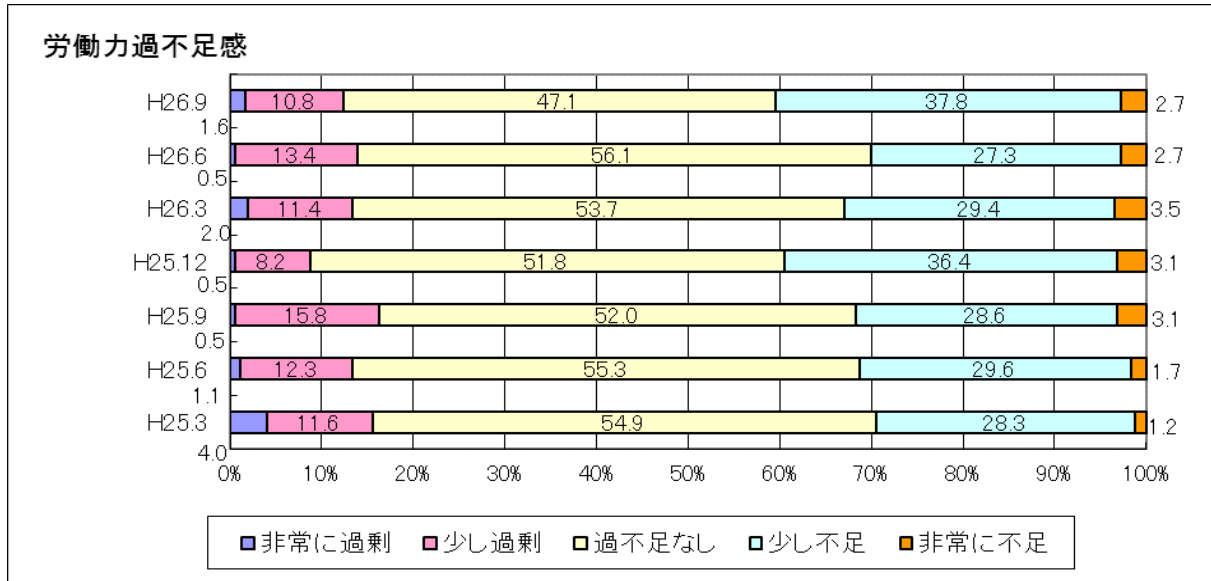
「今後(3ヶ月後)」の先行DI値は▲34.1と現在と比べて2.8ポイント悪化となり、仕入価格の上昇見通しを反映した結果となった。



【労働力の過不足感】

「過剰」（「非常に過剰」+「少し過剰」）と回答する企業は 12.4%と前回調査より 1.5 ポイント減少。一方で、「不足」（「少し不足」+「非常に不足」）と回答する企業は 40.5%と前回と比べ 10.5 ポイントと大幅に増加した。

業種別では、「建設業」の労働力の不足感が他業種と比べ大きく、「不足」と回答する企業が前回から 19.4 ポイント増加し 71.7%という結果になった。依然として高い不足感が続く結果となった。



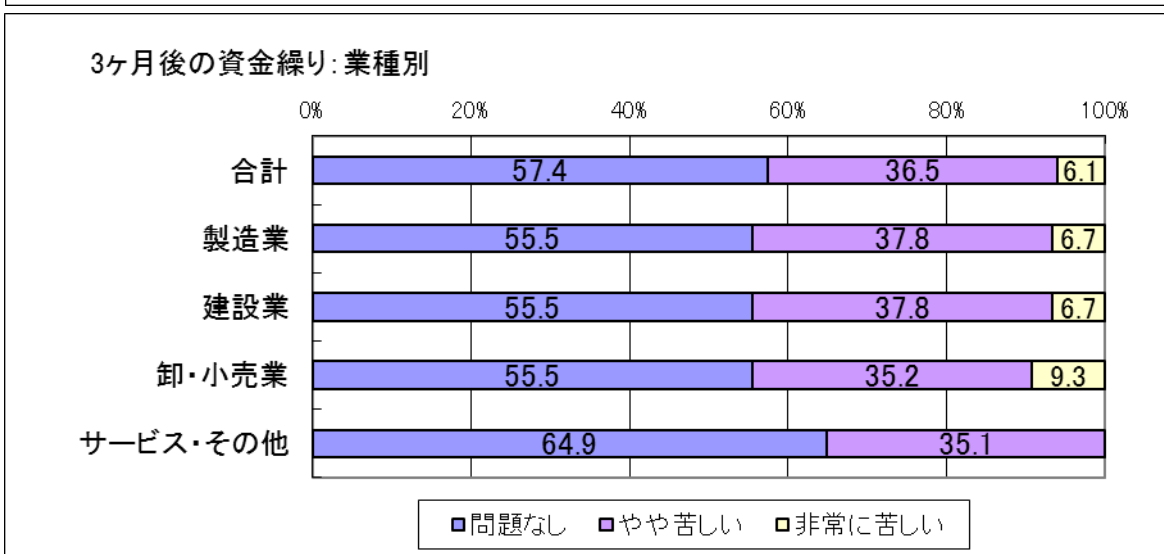
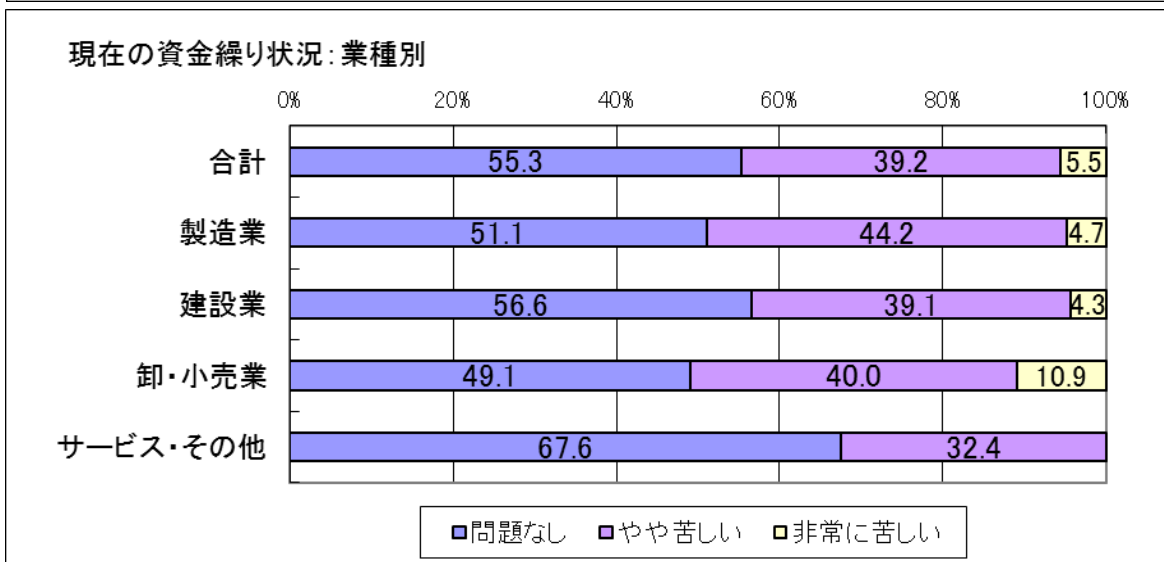
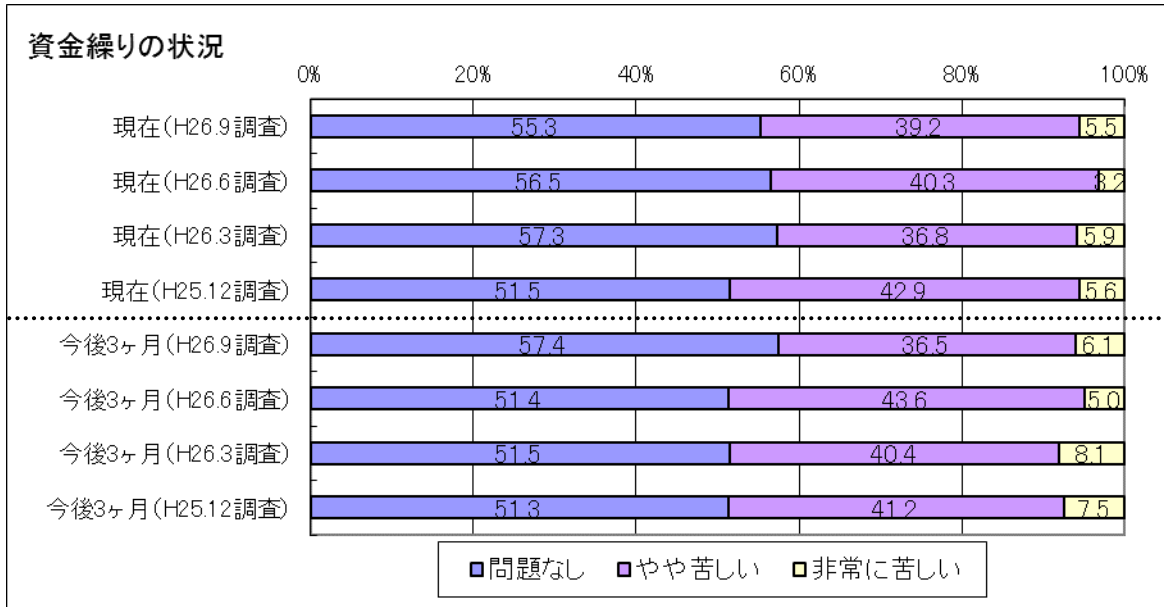
【設備投資計画】

今後 3 ヶ月以内の設備投資計画が「ある」と回答した事業所は 16.9%と前回調査から 3.1 ポイント増加した。設備投資の目的は半数以上が老朽化などによる「設備の更新」という結果になった。



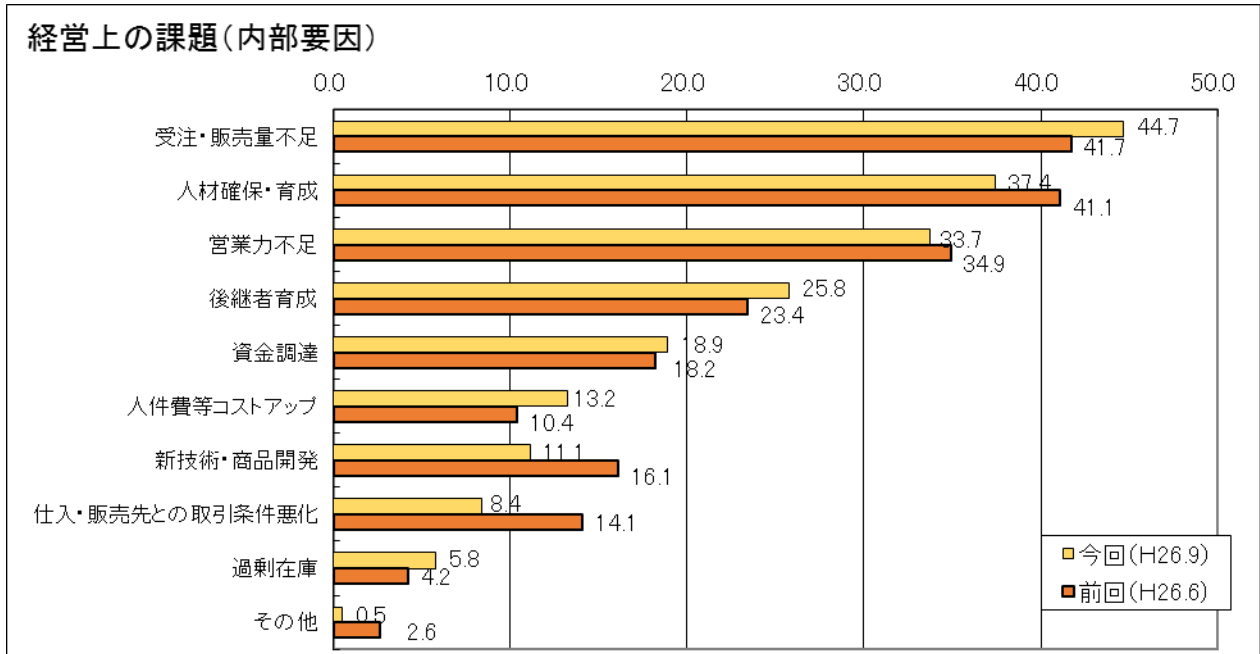
【資金繰り】

現在の資金繰り状況について、「苦しい」「非常に苦しい」「やや苦しい」が 44.7%と採算状況の改善とは反して、前回より 1.2 ポイント悪化。今後 3 ヶ月の予想では、現状より「苦しい」との回答が 42.6%と減少する結果となった。

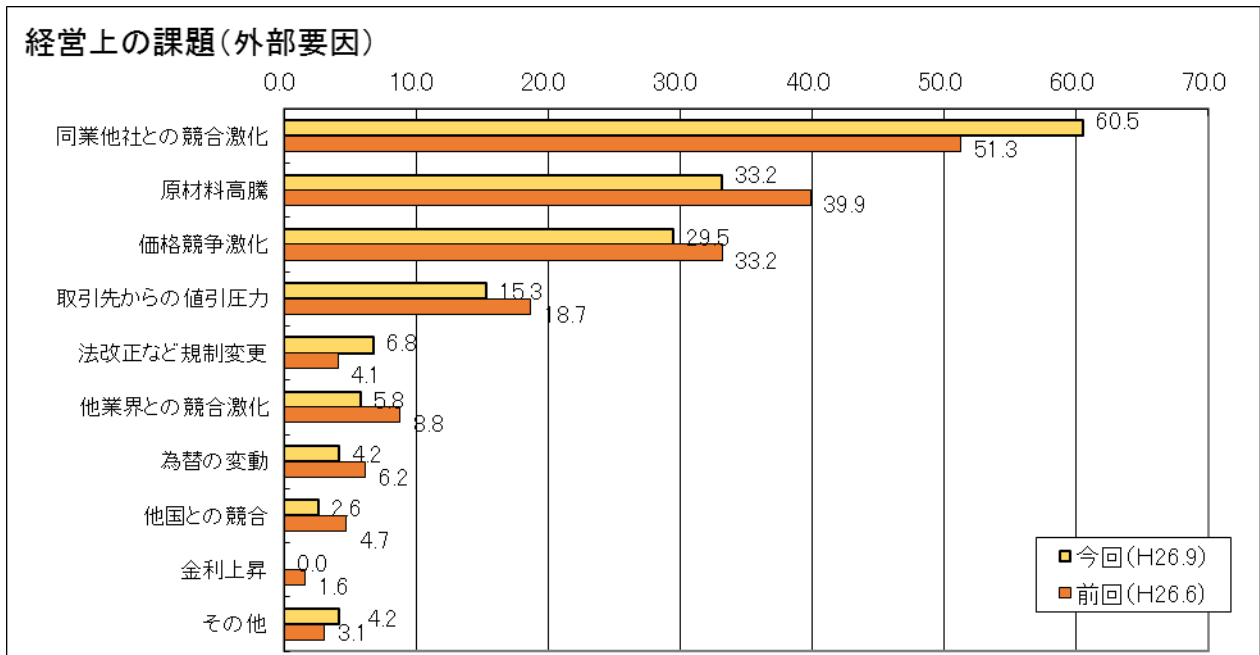


【経営上の課題】（複数回答）

内部要因では「受注・販売量不足」と回答している事業所が最も多く 44.7%、次いで「人材確保・育成」37.4%、「営業力不足」33.7%と続き、前回調査（H26.6）とほぼ同様の結果となった。項目別に見ると、「受注・販売量不足」が 3.0 ポイント増加した一方、「人材確保・育成」が 3.7 ポイント減少する結果となった。



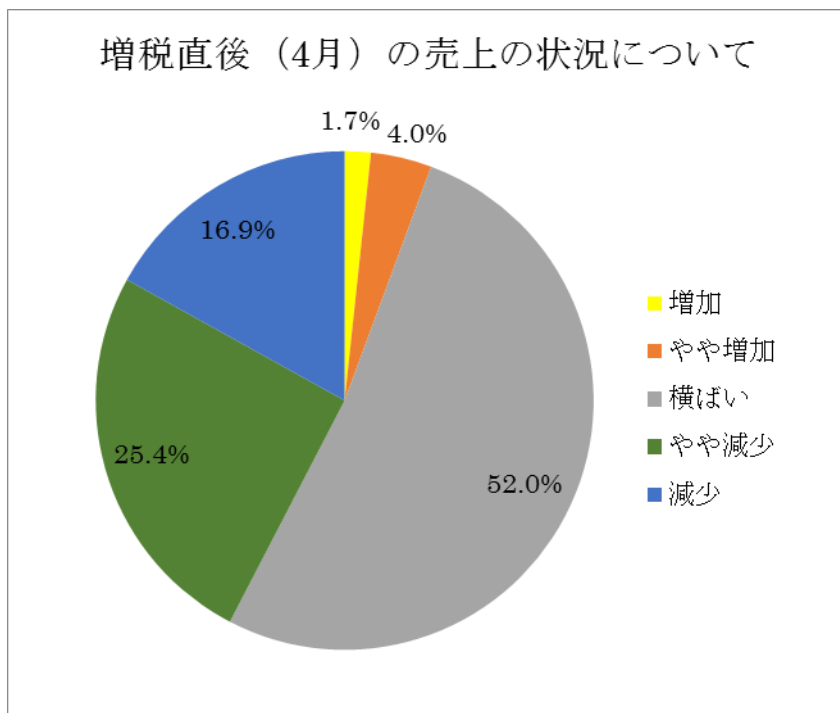
外部要因としては「同業他社との競合激化」が最も多く 60.5%、次いで「原材料高騰」33.2%、「価格競争激化」29.5%と続き、前回調査（H26.6）とほぼ同様の結果となった。項目別に見ると、「同業他社との競争激化」が 9.2 ポイントと大幅に増加する結果となった。



【消費税増税後の影響について】

①消費税増税に伴う、増税直後（4月）の売上の状況について

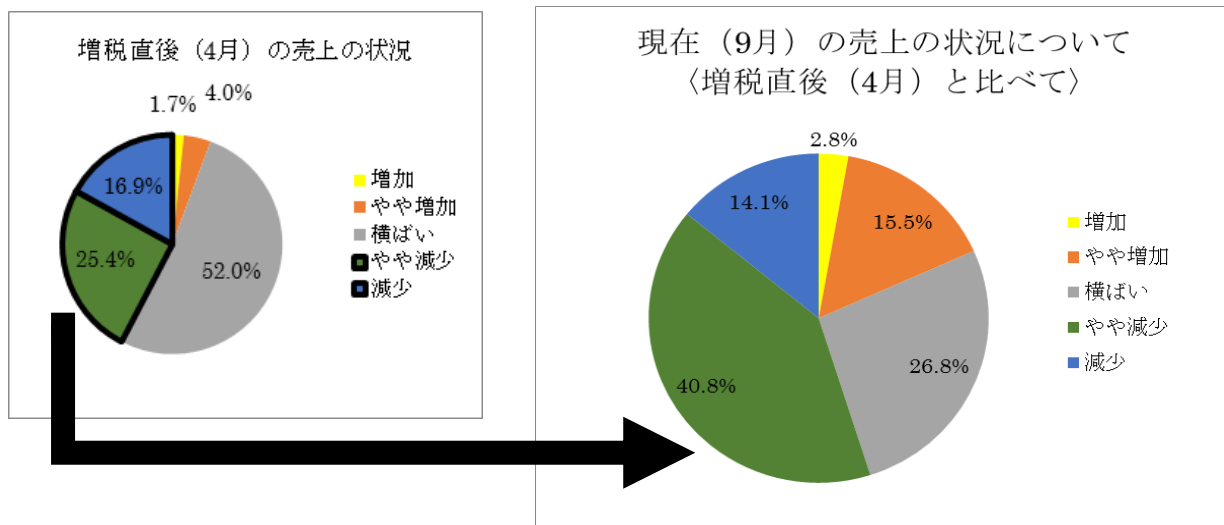
「横ばい」が最も多く52.0%、次いで「やや減少」が25.4%という結果となった。業種別に見ても全業種で同様の傾向になっており、「やや減少」と「減少」を合わせると42.3%の事業所において増税直後売上が下落している。一方で、「増加」、「やや増加」と回答した事業所はわずか5.7%に留まった。



②現在（9月）の売上の状況について〈増税直後（4月）と比べて〉

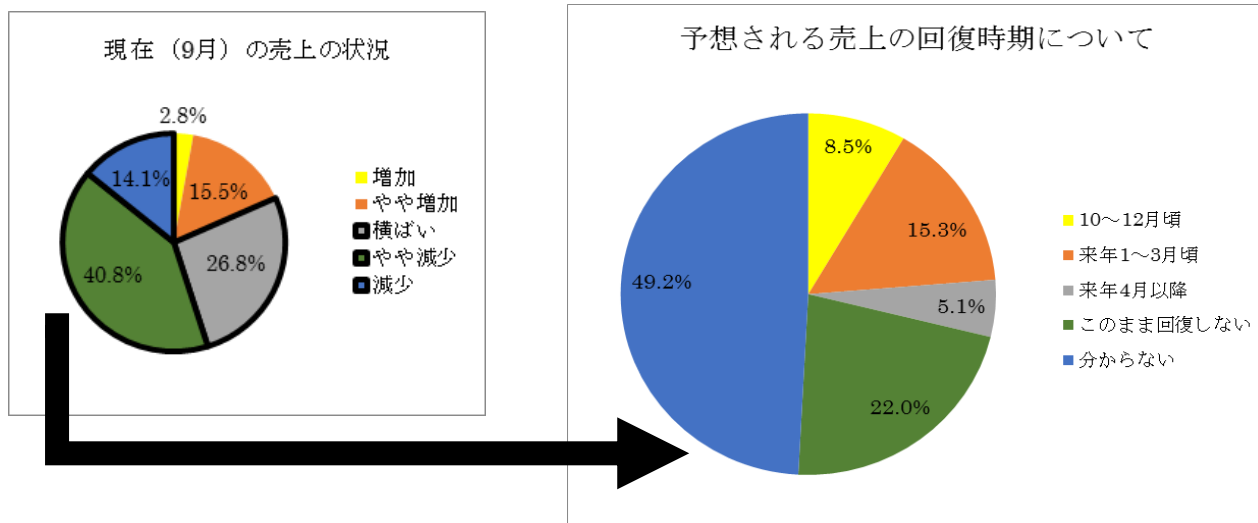
①において「やや減少」、「減少」と答えた事業所に対して、4月と比較した9月時点の売上状況を伺ったところ、「やや減少」が最も多く40.8%、次いで、「横ばい」が26.8%という結果になった。

「増加」、「やや増加」と答えた事業所は18.3%しかなく、増税直後に売上が落ち込んだ事業所の8割以上が未だ回復していない状態にある。



③今後、予想される売上の回復時期について

②において「横ばい」、「やや減少」、「減少」と答えた事業所に対して、今後、予想される売上の回復時期を伺ったところ、「10～12月頃」が8.5%、「来年1～3月頃」が15.3%と、半年以内に回復を見込んでいる事業所は23.8%に留まり、「このまま回復しない」との回答も22.0%あった。また、「分からない」との回答が最も多く49.2%と、先行きの不透明感が強く反映された。



福井商工会議所 景気見通し調査 各種指標推移

